

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 3 年 9 月 30 日 (2021.9.30)

【公開番号】特開 2021-53436 (P2021-53436A)

【公開日】令和 3 年 4 月 8 日 (2021.4.8)

【年通号数】公開・登録公報 2021-017

【出願番号】特願 2020-210408 (P2020-210408)

【国際特許分類】

A 6 3 F 5/04 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 5/04 6 1 1 B

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 8 月 23 日 (2021.8.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

メイン制御手段と、

サブ制御手段と、

を備え、

遊技区間として、通常区間と有利区間とを有し、

通常区間で特定抽せん結果が決定された遊技では、メイン制御手段は、有利なストップ  
スイッチの操作態様を示す所定情報をサブ制御手段に送信せず、

有利区間で特定抽せん結果が決定された遊技では、メイン制御手段は、有利なストップ  
スイッチの操作態様を示す所定情報をサブ制御手段に送信可能とし、

1 バイトの値を記憶可能な第 1 記憶領域と、2 バイトの値を記憶可能な第 2 記憶領域と  
を備え、

タイマ割込み処理によって、第 1 記憶領域に記憶されている値から「1」を減算する処  
理と、第 2 記憶領域に記憶されている値から「1」を減算する処理とを実行可能とし、

第 1 記憶領域に記憶されている値から「1」を減算する処理は、第 1 記憶領域に記憶さ  
れている値が「0」であるか否かを判断することなく、一命令で実行可能とし、

第 1 記憶領域に「 $N(N-1)$ 」が記憶されている状況において、第 1 記憶領域に記憶  
されている値から「1」を減算する処理が実行されたときは、当該処理の結果として第 1  
記憶領域に記憶されている値は「 $N-1$ 」であり、

第 1 記憶領域に「0」が記憶されている状況において、第 1 記憶領域に記憶されてい  
る値から「1」を減算する処理が実行されたときは、当該処理の結果として第 1 記憶領域に  
記憶されている値は「0」であり、

第 2 記憶領域に記憶されている値から「1」を減算する処理は、第 2 記憶領域に記憶さ  
れている値が「0」であるか否かを判断することなく、一命令で実行可能とし、

第 2 記憶領域に「 $M(M-1)$ 」が記憶されている状況において、第 2 記憶領域に記憶  
されている値から「1」を減算する処理が実行されたときは、当該処理の結果として第 2  
記憶領域に記憶されている値は「 $M-1$ 」であり、

第 2 記憶領域に「0」が記憶されている状況において、第 2 記憶領域に記憶されてい  
る値から「1」を減算する処理が実行されたときは、当該処理の結果として第 2 記憶領域に  
記憶されている値は「0」である

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0004】

前述の従来の遊技機は、タイマ値を更新するときのプログラムが複雑化し、プログラム容量が増大するおそれがある。

本発明が解決しようとする課題は、簡素なプログラムで値を更新可能とすることである。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

本発明は、

メイン制御手段と、

サブ制御手段と、

を備え、

遊技区間として、通常区間と有利区間とを有し、

通常区間で特定抽せん結果が決定された遊技では、メイン制御手段は、有利なストップスイッチの操作態様を示す所定情報をサブ制御手段に送信せず、

有利区間で特定抽せん結果が決定された遊技では、メイン制御手段は、有利なストップスイッチの操作態様を示す所定情報をサブ制御手段に送信可能とし、

1 バイトの値を記憶可能な第 1 記憶領域と、2 バイトの値を記憶可能な第 2 記憶領域と、を備え、

タイマ割込み処理によって、第 1 記憶領域に記憶されている値から「1」を減算する処理と、第 2 記憶領域に記憶されている値から「1」を減算する処理とを実行可能とし、

第 1 記憶領域に記憶されている値から「1」を減算する処理は、第 1 記憶領域に記憶されている値が「0」であるか否かを判断することなく、一命令で実行可能とし、

第 1 記憶領域に「 $N(N-1)$ 」が記憶されている状況において、第 1 記憶領域に記憶されている値から「1」を減算する処理が実行されたときは、当該処理の結果として第 1 記憶領域に記憶されている値は「 $N-1$ 」であり、

第 1 記憶領域に「0」が記憶されている状況において、第 1 記憶領域に記憶されている値から「1」を減算する処理が実行されたときは、当該処理の結果として第 1 記憶領域に記憶されている値は「0」であり、

第 2 記憶領域に記憶されている値から「1」を減算する処理は、第 2 記憶領域に記憶されている値が「0」であるか否かを判断することなく、一命令で実行可能とし、

第 2 記憶領域に「 $M(M-1)$ 」が記憶されている状況において、第 2 記憶領域に記憶されている値から「1」を減算する処理が実行されたときは、当該処理の結果として第 2 記憶領域に記憶されている値は「 $M-1$ 」であり、

第 2 記憶領域に「0」が記憶されている状況において、第 2 記憶領域に記憶されている値から「1」を減算する処理が実行されたときは、当該処理の結果として第 2 記憶領域に記憶されている値は「0」である

ことを特徴とする。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００６

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００６】

本発明によれば、簡素なプログラムで値を更新可能とすることが可能となる。